

特養老人ホーム、羽衣園が大幅改修

1月27日、特別養護老人ホーム東川町羽衣園で施設の内部大幅改修事業の完成を祝う増築・改修落成記念式典が行われました。



施設関係者、松岡市郎町長、浜辺啓町議会議長ら町関係者ら約30人が出席しました。(社)旭川福祉事業会の伊東義矩理事長は「より快適で安心な生活の場となった」とあいさつし写真。松岡市郎町長は「住民の方から愛され信頼される施設として運営されることを期待します」とお祝いをしました。

全館防火用スプリンクラーを新設。4人部屋4室を個室7室(うち短期個室5室)に改修しました。給水、給湯など配管、施設内装などを明るく一新。中央部に大浴室を移設、個浴設備も新設して利用勝手を大きく改善しました。

入所50人のうち37人が町内の方です。現在の平均介護度は4・06。介護を必要とされる方の介護度は年々重度化しており、きめ細かな介護サービスが今後とも求められています。

ハルピンから日本語講座に21人が初研修

北海道環境福祉専門学校(宮島武彦校長)で初の中国短期日本語研修講座が開かれ、中国ハルビン市から来日した研修生が約1カ月間の日本語研修に励みました。



来日したのは16歳から23歳までの21人。2月2日、同校で開講式が行われ、松岡市郎町長は「素晴らしい環境の中で地元の人と出会い、さまざまな文化体験を大切な財産として持ち帰ってほしい」と来日を歓迎しました。ともに来日したガ・ギョウシヨウ黒龍江祥

業職業技能培训学校校長は「日本の文化をたくさん学び、日本人とたくさん友達を作って将来日中友好の架け橋となつてほしい」と激励しました。研修生は同月29日まで、日本語の語学学習の傍ら、東川高校生との交流、陶芸、茶道、農業体験、旭山動物園、旭川冬まつり観光、冬の旭岳ロープウェイ搭乗と旭岳温泉入浴など冬の東川、旭川を満喫しました。同講座は旭川福祉専門学校が25年度から学科開設予定。今回は同校日本語学科開設に先駆けて町が主催しました。

冬恒例のキャンピングモーター大会で賑わう

2月11日、キトウシ森林公園キャンピングモータービレッジで第8回キャンピングモーター大会が開かれ、幼児から70歳代の部まで25部門241人が出場しました。本町関係成績は各種大会成績欄(17頁)参照。

全長861・21m、最大斜度23・93度、平均斜度14・29度(幼児

小1コースは別途)。レース開始時から雪が舞い、時折強く降って視界コンディションはあまりよくありませんでしたが、出場したちびっ子選手の好レースに声援いっぱい。ゲレンデ下の公園では、スノーモービルで引つ張るバナナボート乗りのコーナーも人気。レース終了ごろには天



応急危険度判定士が東川で初訓練

2月14日、東川町内で震災建築物の応急危険度判定訓練が行われました。全道から約60人が参加。



東川町郷土館(木造2階建て)、東町会館(鉄筋コンクリート造り2階建て)いずれも東町1丁目IIの構造の違う建築物を利用して、被害シミュレーションに沿って危険度判定を行いました。郷土館は「一見して危険ではない」「地盤破壊による建物沈下はない」「不同沈下による建物傾斜はない」「窓ガラス、外壁の一部がひび割れ、剥落が発生」という想定。建物構造、外観危険度、落下転倒危険度を判定しました。

1級、2級、木造各建築物を対象に判定士登録することができます。判定の正確な技能を高めるため訓練を重ねています。東川町は今回初めて訓練会場となりました。

地震など大規模災害が発生した時、被災した建築物の被害状況を調べ、その建築物が使用可能かどうかの判定を応急的に行うのが応急危険度判定士の役割。全国約10万人の登録者があり、役場職員も2人登録者がいます。東日本大震災でも、各地から駆けつけた応急危険度判定士が被災地の応急危険度判定に活躍しました。

「うま〜い!」東方巻き第一小で大成功

1月29日、第一小(澤田安男校長、児童31人)の父母と児童が全校挙げて東方巻き作りを初挑戦しました。



同日の日曜参観日に併せて作りました。下準備は父兄のお母さんたちが大奮闘。PTA会長の農家を作った「ゆめびりか」(6キタ)、具材の玉子焼き、かに風味かまぼこ、きゅうり、ツナマヨネーズを持ち寄り、子供たちが大好きな味に仕上げました。廊下に並べた会議用の長テーブルは総延長18メートル。テーブルの上の

りを並べ、全校生が炊き上げたばかりの酢飯をのりの上に広げました。ご飯の上に具を載せ、気持ちを一につに合わせて「せーの!」。注意深く巻き上げてジャンボ東方巻きは大成功!

長さはビッグな16・9メートル。ランチルームでそろって今年の東方「北北西」に向き「いただきます!」「うま〜い!」「これ、最高だ!」。 「次はもっと長くなるように挑戦したいね」「今年は学校田のお米を収穫祭で食べてしまったけれど、来年は学校田のお米を使えるかな?」。

東京・八重洲地下街で恒例の観光物産展

2月9日から7日間、ひがしかわ観光協会(浜辺啓会長)が主催してJR東京駅八重洲地下街(南口)で「大雪山ひがしかわ写真展・観光物産フェア」を開き、東川の魅力をPRしました。観光シーズン入りを前に毎年開いて

います。町内在住の写真家、竹田津美さんの写真展、講演会も開きました。大雪山観光と写真甲子園のパンフレット、宿泊ガイド、東川のおいしいお米、旭川ラーメン、トマトジュース、旭岳源水ペットボトル、木工クラフト

品など、東川の特産品を紹介しました。東川東京会の横田茂会長ら出身会員が交代で展示・販売に協力、通勤帰りの都民らに魅力をアピールしました。横浜市内で開催中のカメラショー「CP+プラス」の会場から写真業界の方々も数多く来場してくれました。

